



五戸駅と南部鉄道の列車  
(昭和戦前期・県史編さんグループ所蔵)

平成6年に発生した三陸を与えた昭和58年の日本海中部地震もあるが、大地震を中心として家屋に大きな被害が発生したが、それ以来、青森県では地震による大きな被害は幸いにも発生していない。このように、戦後本県に大きな被害をもたらした地震としては、津波によって西海岸に大被害

を与えた昭和58年の日本海中部地震もあるが、大地震を中心として鮮烈な印象を残したのは昭和43年5月16日に発生した十勝沖地震ではないだろうか。

この十勝沖地震では、津波や地滑りなどで、南部地方を中心として県内の各地に被害が発生したが、この

地震の影響で廃止に追い込まれた鉄道があったことをご存じだろうか。

三八地方を中心に運行している南部バスの路線図を見ると、五戸町に「五戸駅」というバス停がある。しかし、地図を見ていただければすぐにおわかりになるとおり、五戸町には現在鉄道の路線は通っていない。

ここまで書いてもうお気

## 地震が奪ったレール

— 南部鉄道 —

石塚雄士

(青森県青少年・男女共同参画課)

「五戸駅」こそ十勝沖地震のために廃止に追い込まれた南部鉄道の終点、五戸駅の跡地である。現在その場所を五戸営業所として使っている南部バスは、鉄道廃止後に南部鉄道がバス

の姿なのである。

南部鉄道は、昭和4年にまず尻内駅（現在の八戸駅）から七崎駅の間で営業を開

始し、翌5年に五戸駅までの約12kmの路線が全線開業した非電化の私鉄である。

五戸周辺と三八地方の中心都市である八戸とを結ぶ地域の足として、廃止の直前には1日12往復の列車が運転されていたが、開業から39年目の、昭和43年に文字通りの激震に見舞われることとなる。十勝沖地震で

路線の37ヶ所が不通となり、特に志戸岸駅付近

では、線路が敷かれていた築堤が崩壊するという壊滅的な被害を受けた。そして、この被害を復旧するには多大の費用と労力が必要となり、路線の再建は非常に困難であると判断された。そのため、南部鉄道の路線は地震から約1年後の昭和44年3月に正式に廃止され、その使命を終えることとなった。

現在、その廃線跡を注意深く観察すると、まだわずかに鉄道が走っていた頃の痕跡が残されている。しかし、それも道路の整備など

で徐々に消え失せており、先に述べた「五戸駅」というバス停と、ルート上に立てられた「南部鉄道使命を果たす」という石碑に名残を残して、その存在は人々の記憶からも消え去ろうとしている。

幸いなことに近年、鉄道の路線が廃止にまで追い込まれるほど深刻な災害をもたらすような地震等の災害は発生していない。しかし、毎年のように全国各地の山間部や地盤が弱い場所を中心に、大雨による地滑りや洪水などの災害によって、鉄道などの交通インフラが大きな被害を受けている。このように交通を寸断するような災害はいつでも起こりえるということを、われわれは認識する必要がある。そして、被害を最小限にとどめ、人々の足を守るためには日頃から様々な対策が必要であると、南部鉄道の廃線跡は訴えかけているのではないだろうか。